

小林 (須磨学園) 大器の証明

陸上

フィニッシュラインを越えると、自然と両手でガッツポーズをつくった。陸上女子千五百円で小林が日本人トップの2位。日本高校新をマークした6月のインターハイ近畿地区予選より1秒74遅かったが、「近畿より気持ちも体も持っていた」。鮮やかな高校全国デビューを飾った1年生は、充実した笑顔を浮かべた。

若い

小林
小 祐梨子

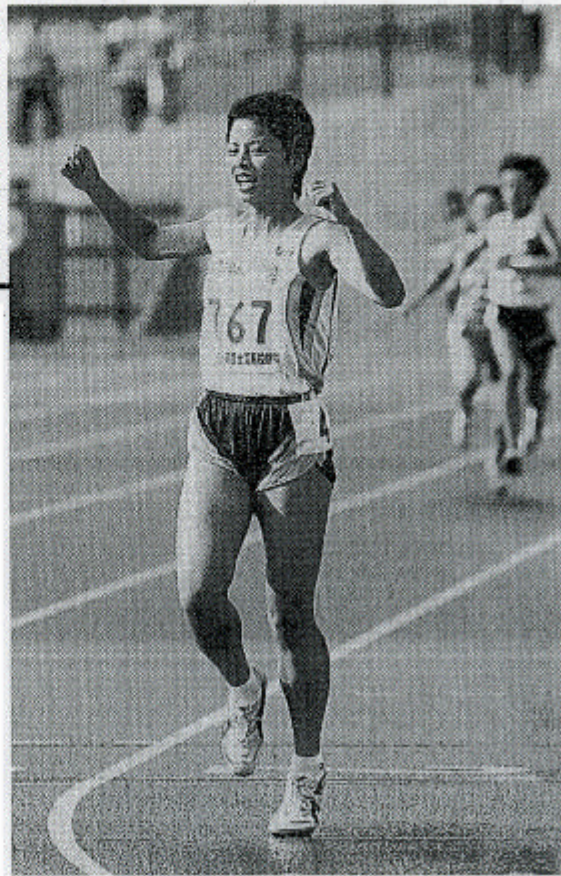
中学時代から持ち味とする「先行逃げ切り」は、高校でも変わらぬ輝きをみせた。「前半から行くつもりだった」と果敢に攻め、スタート直後、すぐに2番手につけた。先頭のフィレス(山梨学院大付)の背中を捕まえることはできなかったが、中盤以降も後続との差をじわじわと広げた。

八百円と千五百円の中学女王。「高校に入ってから

女子1500メートル 日本人トップ 中学女王、鮮烈デビュー

伸びるか」との不安もあったが、6月に快記録をマークし、吹っ切れたという。競り合う場面がなかったこの日は披露できなかったが、高校では「駆け引き」という新たな武器も身に付けた。中学時代から3センチ伸びた身長と同様に、その走りも着実に成長している。それでも「ラスト100、50円でももっと追いこめるように体をつくりたい」と意欲は尽きない。レースの間だけ夕立がやんだように、夏空も優しく、ヒロインを祝福した。

(中西幸太)



陸上女子1500円決勝
日本人最高の2位に入り、ガッツポーズを見せる小林祐梨子(須磨学園)
|| 島根県立浜山公園陸上競技場(撮影いずれも田中靖浩)